



『祈りをささげる』

この岬の沖は、海が荒れ
ると言われている。何隻も
の船が遭難し何人も人が
亡くなってきた。
この話を聞いたあるお坊
さんが、かがり火を焚き、
往来する船の安全を見守り、
遭難で亡くなった人の霊を
鎮めようと祈りをささげた。
これが私の先祖である。

～解説～

全国には、このように昔から船が遭難する場所がたくさんありました。

夜間の航海を助けるために、かがり火を焚いて目印にしていたのが灯台の始まりです。

今は、航海計器が発達して、航海の安全が保たれていますが、機器に頼らず **目や耳でも安全を確認**してください。



城ヶ島篝火台（神奈川県三浦市）

背景は、「海を照らして150年」より引用

海の「もしも」は**118番**